県北道路の完成喜ぶ

開通記念しウオーキング

「みやぎ県北高速幹線道路開通記念ウオーキング大会」は12月8日に開かれ、中田工区の完成を祝い、25日の開通を前に約300人がウオーキングしました。

東北道と三陸道を結ぶ県北道路の中田工区は、中田町石森の佐沼ICから三陸道登米IC近くの県道までの4.7* 流っ参加者は佐沼ICから中田町宝江の中田ICまで往復3.4* 点流をウオーキングし、終了後には通行記念証が手渡されたほか、はっと汁も振る舞われました。参加した小野寺惠美子さん=中田町本町畑中=は「工事しているのを見ていたので参加しました。石巻市に行く際には便利になりますね」と目を細めていました。



約300人の参加者が一斉にスタート。寒さの中にも温もりがある 日差しの下、景色を楽しみながらウオーキングしていました。

はっとフェスで舌鼓

個性豊かなはっとが集結

「第15回日本一はっとフェスティバル」(同実行委員会主催)は12月2日、迫中江中央公園で開かれ、過去最多の約3万人が訪れました。

市内外から自慢のはっとを提供する34店舗が出店。 来場者らは、体が温まる個性豊かなはっとに舌鼓を打ちました。購入者の割りばし投票で決まる「はっと大賞」には、伊豆沼農産の「赤豚カレーはっと」が選ばれ、3度目の頂点に輝きました。二階堂麻美さん=気仙沼市=は「人が多くてびっくりしました。2歳の子どもも牛すじはっとをおいしそうに食べていたので、来てよかったです」と話していました。



会場は、定番のものや一風変わった味など、さまざまなはっとを 笑顔で食べる来場者であふれていました。

地域の活性化に期待東北エ大と連携協力協定

「登米市と東北工業大学の連携・協力に関する協定締結式」は12月13日、とよま観光物産センター遠山之里で開かれ、市と東北工業大学(今野弘学長)が連携協定を締結しました。

協定には、観光資源を活用した地域活性化、歴史的建造物の調査や景観・街並み保全、新しい産業の育成などが盛り込まれ、同大の教員や学生らが市内で調査研究に取り組みます。熊谷盛廣市長は「地域の企業などと、さまざまな共同研究や産学官連携を推進し、学生の学びと活動を通して、地域の課題解決や活性化につなげたい」と期待を込めました。



協定を結び、熊谷市長と固い握手を交わした今野学長(左)は、「お互いの資源を活用して、活性化につなげたい」と語りました。

個性を認め共に働く 障がい者の就労を考える

「『共にはたらく!』〜発達障害のある方の就労〜」 (障害者就業・生活支援センター「ゆい」主催)は12月3 日、迫公民館で開かれ、地域住民や関係事業者など約40 人が参加し、就労支援について理解を深めました。

講演では、宮城障害者職業センタージョブコーチの水落清次さんが、発達障がいの特性や事例などを紹介。 「職場や日常生活で、生きにくさがあることを理解し、個人の特性に合わせた支援が必要」と述べました。シンポジウムでは、障がい者雇用に取り組んでいる事業者と従業員が、勤務状況や体験談などを発表。参加者は、就労支援で大切なことを再確認していました。



店舗で接客をしている従業員が体験談を発表、「お客さまにありがとうと言われると、とてもうれしい」と笑顔を見せました。

火災ない明るい年に 年末年始の防火広報活動

年末年始消防特別警戒期間中の防火広報活動は12月 23日、イオンタウン佐沼で行われ、熊谷盛廣市長や消防 関係者ら約20人が防火意識の向上を呼び掛けました。

火を取り扱うことが多い年末年始は、ちょっとした 不注意で、火災発生の危険性が高まる時期。参加した消 防団、婦人防火クラブや佐沼中学校少年消防クラブな どが「年末年始消防特別警戒中です。火の用心をお願い します」と声掛けをしました。買い物に訪れた浅野静花 さん=登米町中町=は「揚げ物などの料理の際は、火の 消し忘れがないように、コンロのそばから離れないよ うにしたい」と防火の大切さを再認識していました。



消防関係者や佐沼中少年消防クラブの生徒が、注意喚起のリーフレットや啓発グッズなどを配り、火の用心を呼び掛けました。

登米無双契機に交流

堺市の小学校で訪問授業

「大阪府堺市立金岡南小学校への訪問授業」は12月4日、同小学校(藤井広美校長、児童1079人)で開かれ、市企画部企画政策課の職員が4年生186人の児童に、本市のシティプロモーションの取り組みや東日本大震災時の状況などを紹介しました。

訪問授業は、9月に同校4年生が本市のPR動画「登米無双」を社会科学習の題材にし、感想や震災復興への応援メッセージを本市に送ったことがきっかけで開催。黒川虎之助くん=堺市=は「登米無双や登米市のことがさらに好きになりました。これからの防災の勉強に役立てたいです」と目を輝かせていました。



東日本大震災の状況を真剣に聴く児童たち。震災のときに大変だったことや準備しておくものなどについて質問が出ました。